

(2020/8/01)

梅雨明けが待ちどろしい(7/21)。九州、中部、北信の豪雨終れ!!! NHKのBS 地球大紀行、グレートネイチャー等で知るが、南極・北極・高地の氷雪が激しく溶けている。その水が大気圏に漂う。結果、集中豪雨。列状低気圧の襲撃。河川の排水能力を超える降水。

これからは、山野に生える樹木らの植生を見直す。広葉樹・針葉樹の混交林を意図的に増やし、保水力のある山林を作る。河川の見直し、畑地・田地・居住地・交通路の設定。それらを徹底的に見直す必要が出て参りました。黒部ダムを作る技術で国土の排水能力を高める開発を始めていかないと!!! 宇宙開発の前に、地球管理を始めなければなりません。



7/26 大玉トマト (ステーキハウス)

長梅雨で、中々赤くならない

トマトの赤みがなかなかつかない。甘味が乗らない。巨大なトマト、ステーキハウスの花が落ちる、実が落ちる。「ほっとけカボチャ」の若い実がボロボロ落ちる。ご機嫌なものは、「クワイ」「トウモロコシ」「サトイモ」。トウモロコシは元気。水分の要求度の大きいことが経験できました。

「ナス」は、5本。「キュウリ」は、3本。ナスの苗選びに失敗したようです。それと、昨年の耕作者のジャヤガ芋畝であったせいから、絶不良。作り直しです。掘り残しの小イモに気が付いていたのに。土を入れ替えたのでこれで良いと油断してしまいました。牛糞堆肥、ダルマ堆肥、醗酵鶏糞、糠、高度化成で畝の作り直し。苗は、オザキフラワーで仕入れましょう。ハコベ、ホトケノザなどが目立ちますので、PH(パー=酸度)は、7.0程度であると思いますので、調整はしない。石灰での中和は必要ない。

トウモロコシの種寿命は、長いらしい。4~5年前に購入したものでしたが、発芽100%の勢。蔓ありインゲンの支柱を兼ねて、東西畝に植えました。肥料分の多い畝、少なめにした畝、それぞれ順調に成長をしました。肥料十分な畝は、市販されているような出来でした。ナスの後ろに植えたので、散水は十分でした。トウモロコシは良し!

畑の肥料状態の可視化についても納得できました。(7月号)。 養分の不足している畝に高度化成を追肥しますと、生育が回復しました。 有機堆肥だけでは養分不足することも確認できました。

東亜化成の中島浩輔氏「30坪の自給菜園」(農文協)で述べられているとおりであります。さらに、薄上秀男「醗酵肥料の作り方・使い方」(農文協)で、有機発酵肥料を作りまして、無農薬の安全安心の野菜を作っています。 オカラ、糠、の入手先も見えてきました。で、5年ぶりですが、取り組んでみます。

今までは(現代農法)、有機物は分解されて無機化して初めて吸収されるという考え方が主流でした(ドイツのリベットの説)。 有機物が分解・合成された低分子の成分(糖質・アミノ酸・旨味成分・ミネラル・酵素・ビタミン・ホルモン・キレートされた微量成分……)が、根・葉・茎から吸収されていく。 で、ありますから、有機栽培では、美味しく、栄養のある野菜を手に入れることが出来るのです。さらに、無農薬、減農薬で野菜が作物が作れるのです。 健康な植物は、病気や害虫を寄せ付けない。 薬を補助的に使うということはあるでしょうが……。 有機無農薬栽培で、安全で安心。 然も、美味しい野菜を作ることが出来るのです。

病虫害は必ず発生する。 発生前に叩くというような考え方は止めにしたい。 そんな事より、健康な生育をどうするのかを考えていきたいものであります。 元気な野菜に、病虫害の発生は少ない。 健康な植物は、病菌・虫どもの忌避成分も合成するとも言われています。 また、無農薬栽培を進めるためには、コンパニオン植物も利用していきたい。

トウモロコシの茎に這いあがった蔓ありインゲン。 ぼちぼち収穫しています。

支柱数を少なくして、間にトウモロコシを植える。 初めてこの方法でやってみました。 良いですよ。

モロコシの葉を落とし、風を通す！ 蔓の絡んでない茎も切り取る。 茎葉は、細かく切って根元に置く。 積み置く。 ラクラクであります。 区民農園はとて手狭でありますから、空間を利用したい。 幸い今回の畑は、北側が区道に接しているのでお隣りさんがいない。 で、支柱を高くしています。

畝の土を乾燥させない。 有機物を補充して、必要なら「糠」を撒く。 仮通路用の板を載せる。 これで、OK。 有効菌(麹菌・納豆菌・乳酸菌・酵母菌・光合成菌……)を撒く。 板の上は仮通路。 保水。 ミミズが住む……。 最終的に放線菌が繁殖した畝になりますます。

農園の使用期間が2年なのが惜しい。 ですので、1年目は、有機栽培の畝作り。 2年目は化成製肥料も使います。 各種の「菌」を畝に入れていますが、酵母菌がうまく働くと良い香りが漂う。「油粕」を使うと腐敗菌が増えて、悪臭がしますので使わない。 腐敗臭は、土壌の「腐り」です。 病害・虫害を呼び込みます。 放線菌を増やすことから、ミミズも入れる。 放線菌は悪玉菌(フザリウム・ペシウムなど)を攻撃するそうです。

サトイモの追肥(7/24) 生育の悪かったナスの植え直しで、地上のマルチに使った収穫残渣をかたずけて、里芋の畝の脇に置く。 竹の茎葉・茎、枝豆の茎葉、刈り取った草などです。 「糠」を振ります。「ダルマ堆肥」を振ります。「グリーンランド」(醗酵豚糞肥料)を振ります。 薄めた「光合成菌」を撒きます。 板を載せます。 これで、OK。

楽であります。 風の通りも良くなります。 厚めの板で仮通路になります。 有機物の片付け中にミミズの子が跳ね回るのが面白い。 耕さないのに畝がフカフカしている。 どんどん置いていくだけです。 自然の「原」のように。 重労働で無いのが良い。 畝を作っ

た3月の有機物用の深い溝の位置が追肥位置になります。ラカカカカなのであります。

再び、スイカ名人に学ぶ 今は(7/25)は、ズッキーニの花が咲く。ネギが元気よく育つ。「鶏糞」？を撒かれて、軽く耕す。しばらくして、化成肥料を施されているので、「化成8・8・8ですか？」と聞く。

『8・8・8では効かないよ』と、言うことは、高度化成か？で、「東亜化成のシフト100(12,12,12)をお使いですか？」すると、『ムムムムムムムム』凶星か？ご機嫌斜め！遅効緩効性の化成肥料？……『そこまで言わせるのか！』なのでしょう。

だんまり！！ズバリだったと思います。名人、語らず。

スイカ14個、大量のトマト(大・中・小)。確実に収穫なさっている。プロの農家も口を出せまい。実に、大先輩から学ぶところが大きい。『作物を慈(愛)しむこと。よく観察することだ！』『聞いて、読んで分かる物ではない！』『見て学べ！』だ。

『トマトはネー、着果ホルモンのトマトーンが必要だよ』と教えていただく。感謝。

イタズラやのH氏も流石に大先輩のスイカには手を出せなかったようである。さすが、さすがの話である。

サツマイモ 悪い悪戯をする方がおりました、耕作者の丁寧に作られたサツマイモの畝からイモ苗を引き抜いて脇に捨てる。気づいた時点で植え直されておりましたが全滅。全く酷いものです。イタズラしている方は、私のイモの鉢苗の茎を盗んだ人で、(現場は見えていない)。自分の畝のサツマは良く出来ています。全くお気の毒な話です。鉢植えしておいた苗がまだありましたので、鉢ごと差し上げました。オザキフラワーでは20本、30本、単位での販売になりなすので、買いにくいのであります。

私の被害は、「クワイ」のコンテナに入れたオタマジャクシを3回も持ち去りました。「レンコン」のコンテナに入れたメダカ(蚊の防止用)も。「クワイ」も「レンコン」も抜きましてイタズラ防止用のカバーの上に乗せ置く嫌がらせ。腹立たしい。

その方が手にヘラを。「その持っているステンレスの移植ヘラ。それは私の物ですから勝手に使わないで！直ぐに戻さない！」その時は返したが、3日後には無くなり、自分の畝で使っている。持ち去ろうとした現場だったのです。

さらに、『このヘラはね、自~~私~~車の荷台に置いて毎日持ってくるヨ』とぬかす。⇒「俺が盗って使っているヨ」と言わんばかり、平然と言う。名前を書いておかなかったのが失敗でした。Tの字の刻印がありますので印をつけておけばよかったが、盗まれた！

3月の時点で新品のホースがなくなった方もいる。4月にブロッコリー3本、カモミール(German種)1本抜き去られた。手の込んだ^{うまい}擲^なり、腹が立つ。

一生懸命スイカ育てている方の場合は、あと一週間もすれば収穫できると期待しているものを盗って、挙句の果てに、市街地のごみ捨て場に捨てた。また、親子で楽しみにしているスイカも突然枯れてしまう。こんなことが度々なのである。



クワイ 逆根 セリ 稲 メダカ 抜かれてかき回される。 ステンレスの移植ヘラ オザキで買った逆根



7/8 見事に実るトウモロコシ



7/19 西南に コンテナにイネ、クワイ、逆根

7月に入って「ジャボチカバ」の実が付かなくなりました。20個ほど幹になっていたのですが、頭の黒いネズミ(妻)が、雨戸をあけると手を伸ばして摘まむものですから、木が機嫌を損ねてストライキ状態。 マグアンプKを追肥、水を大目に与えています。 6回目の収穫は暫らくおあずけ。 5年近く植え替えをしていないので根詰りもあると思います。

「ミラクルフルーツ」にアリが。 煤病が発生しました。 フマキュラー社のカダンプラスDX(赤色容器)を散布する。 ベランダに出して雨に当てる。 回復を待つ。 今年の雨の降りかたはすごい！ 葉がきれいになりました。

「いなげやで」1個400円の桃を買う。 高いですね。 誰かさんに怒られました。 数日後(後熟)、いただきました。 美味しかった。 すると、今日(7/25)、姉から、6個入りの山梨県産の桃が。 「やったね！ ありがとう」

大学生の時に、庭でネクタリンと大久保白桃を作ったことがあります。 大変苦労しましたがダメ、✖。 南大泉の桃農家(桜井源一氏)に色々教えてもらいました。 縮葉病、アブラムシ、ハダニ・・・、練馬の気候・土質が合わないとの結論に達して、その後、桜井さんは、桃の栽培をお止めになった。

そこで、すもも「ソルダム」にもトライ、これもダメ。 ウメ、アンズで我慢しています。 出来たらいただく程度ですが。

小庭が有ったら、庭木は止めて、果物を作りましょう。 小果樹、中果樹、大果樹、そんな言い方があるか分かりませんが・・・。 お勧めは柑橘類、柿、ヤマモモ。 今年やってみて良かったのは、クワ科のマルベリー。 また実つきの良い、木苺類も面白い。 ジュースにしたり果実酒、ジャムにしたり楽しい。 柚子もお勧めです。

余命の期待できる50歳代から始めたいものです。 毎年良くなる果樹作り。 庭づくりをお勧めします。 年々楽しみの増えていく庭を作りましょう。 どうせできないヨではなく、例えば、キンカンの鉢栽培、ネブル、蜜柑、ベリー類、熱帯の小果樹などどうでしょうか。 楽しみを作ろう。 ブドウを作るには、どうしても薬剤散布が必要になるので難しい。

キウイフルーツは蔓の成長が激しいが、無農薬でできる。 キウイ、ブドウの管理は手がかかる。

昭和30年代に亡くなった祖父に「棕櫚」の鉢植えをプレゼントしました。 96歳で亡くなりなしたが、最後まで「棕櫚」を可愛がっておりました。 果樹ではありませんが、命あるものを最後まで慈しんでくださいました。 オジイの「遠藤堪七」さんは、波乱万丈の生涯を送られた方でありました。 T